

基 礎 調 査 報 告 書

目 次

1. 向日市の環境の現況	1
1.1. 向日市の概況	1
1.2. 産業	2
1.3. 生活環境.....	3
1.4. 都市環境.....	5
1.5. 自然環境.....	8
1.6. 資源の循環	9
1.7. 地球環境.....	11
1.8. 環境保全への参加.....	16
2. 現行計画の進捗状況について	18
2.1. 環境指数の達成状況	18
3. 現状における課題.....	28

1. 向日市の環境の現況

1.1. 向日市の概況

1.1.1. 位置・地勢

本市は京都盆地の南西部に位置しています。西部と北部は京都市西京区、東部は京都市南区・伏見区、南部は長岡京市と接しています。

面積は 7.72 km²であり、東西の最大幅は約 2km、南北の長さは約 4km と、南北に長い市域となっています。

市域の大部分は京都盆地の平坦な地形ですが、西部に小さい丘陵地（西ノ岡丘陵）が見られます。



図 向日市の位置

1.1.2. 気候

本市の年平均気温は、16～17℃で推移しています。全体的に温和で過ごしやすい気候であるといえますが、盆地気候のため年較差は比較的大きくなっています。また、降水量は夏季に多く、冬晴れの日が多い太平洋側の典型的な気候です。

経年的な変化をみると、平成 19 年には最高気温が 40.9℃を記録するなど、最高気温が 35℃を越す猛暑日が増えています。また、降水量は平成 27・28 年に 1,700mm を超えています、ここ数年は 1,200～1,500mm 程度です。

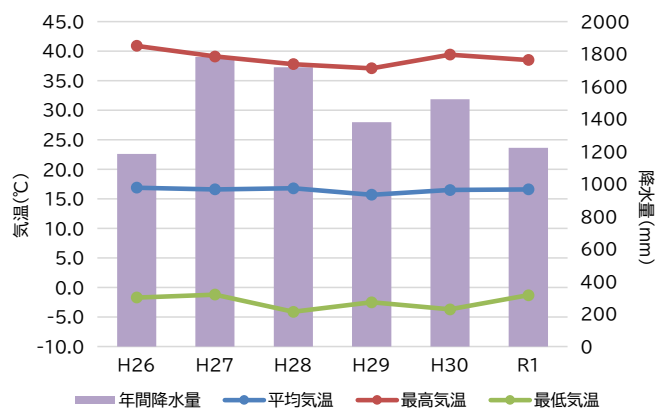


図 年間降水量等の推移

1.1.3. 人口・世帯数

本市の人口は、京都市や大阪府のベッドタウンとして宅地需要が高まったことを背景に、1960(昭和 35)年頃から急激な増加が見られました。1985(昭和 60)年以降は緩やかに増減しており、2020(令和 2)年には桂川・洛西口新市街地の誕生により、今までで最も多い 56,238 人となりました。

また、世帯数は 1990(平成 2)年から約 6,000 世帯増加し、23,000 世帯を上回りました。その一方で 1 世帯当たりの人員は減少し続けており、2020(令和 2)年現在では 2.41 人となっています。

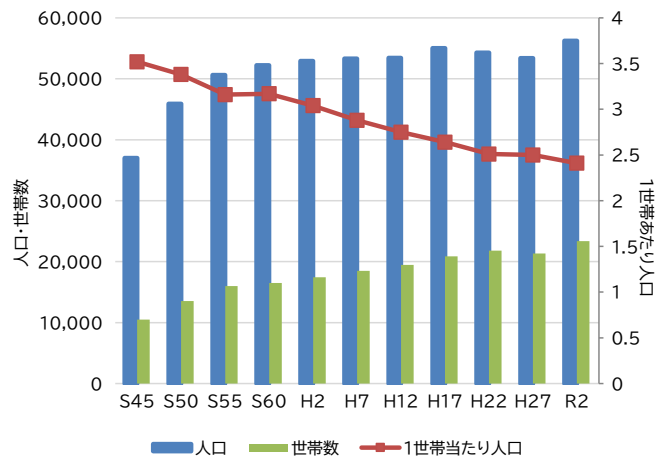


図 人口・世帯数の推移

1.2. 産業

本市における労働人口は約 25,008 人であり、そのうちの 69.6%が第 3 次産業に従事しています。第 1 次産業従業者は 1.0%と非常に少なく、産業構造として大都市近郊の特性が表れています(平成 27 年国勢調査より)。

主な産業について個別にみると、農業は水稻を中心に、特産物のタケノコ、ナス、花き(けんがい菊、花壇苗)の生産が盛んです。製造業は、事業所数が 131、従業者数は 1,958 人となっています(平成 28 年経済センサス-活動調査)。商業は、店舗数が 299 店舗、年間商品販売額が約 751 億円となっており、近年(平成 26 年商業統計調査)、近年、販売額は減少傾向にあります。

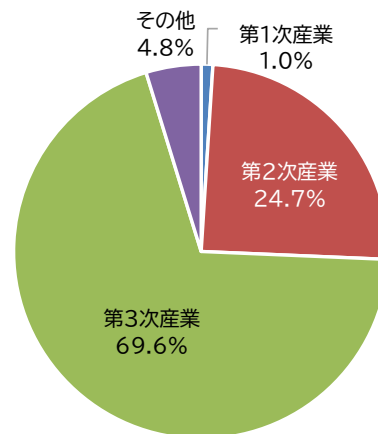


図 産業構造(平成 27 年)

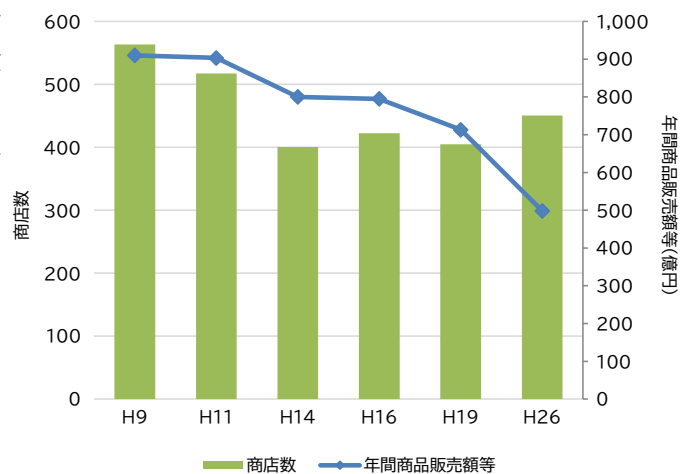


図 商業の推移

1.3. 生活環境

1.3.1. 公害苦情受理処理件数

近年、公害苦情受理処理件数は年間 15 件を越えることが多く、特に 2016(平成 28)年度以降は増加傾向となっています。

苦情内容別にみると、騒音が増加傾向で年間平均 6.2 件発生しており、また大気汚染は 2015(平成 27) 年度をピークに減少しています。

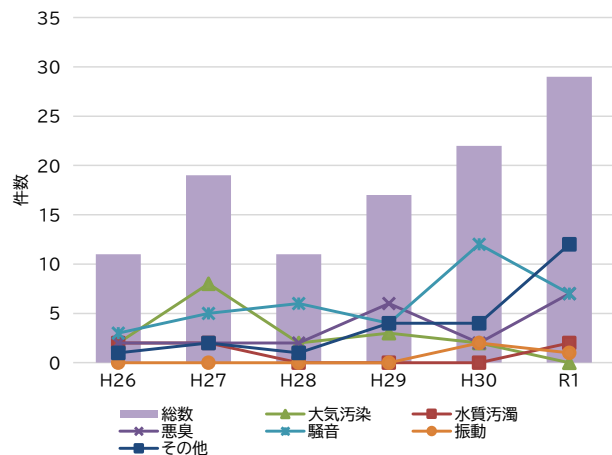


図 公害苦情受理処理件数の推移

1.3.2. 大気

光化学オキシダント濃度が環境基準を超え、光化学スモッグ注意報が発令されたのは、2014(平成 26) 年度以降 3 回となっており、特に近年は発生頻度が少なくなっています。

なお、光化学オキシダントは、工場や自動車などから排出された「窒素酸化物」(NOx) や「揮発性有機化合物」(VOC) が太陽光線に含まれる紫外線を受けて変質し、生成されるものであるため、日差しが強くなる春から夏にかけての日中に濃度が高くなる傾向があります。

表 光化学スモッグ注意報発令回数

年度	発令回数	発令年月日	オキシダント 1時間最大値 (ppm)
H26	1	26.7.15	0.129
H27	1	27.5.27	0.132
H28	-	-	-
H29	-	-	-
H30	1	30.6.25	0.122
R1	-	-	-

京都府向陽測定局

1.3.3. 水質

市内を流れる寺戸川、石田川、和井川、小井川の 4 河川 5 か所の水質 (BOD) について、2014(平成 26)年度以降のデータをみると、年度によって変動がありますが、いずれも環境基準を満たしていました。特に石田川(西羽東師川合流点)については 2017(平成 29) 年度以降値が高くなりました。

川の中の微生物(細菌)が水中に存在する汚濁物質(有機物)を分解するときには、

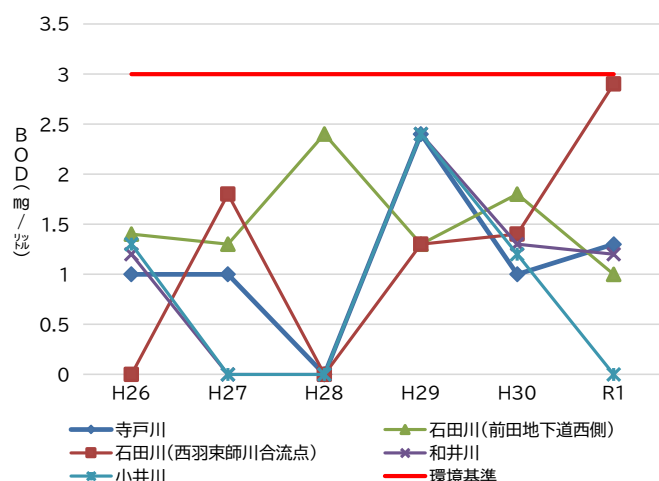


図 河川水質の経年変化 (BOD)

人が呼吸をするように酸素を使います。一般に、BOD の数値が大きい場合は、微生物が酸素をたくさん消費して有機物を分解している状態、即ち、水中に存在する有機物の量が多いことを意味し、有機物による水質汚濁の程度が大きいことになります。なお、河川に流入する水質汚濁の原因としては、生活排水や農業排水などが挙げられます。

1.3.4. 騒音

幹線道路や新幹線の沿道・沿線における騒音は、一部の地域でなおも環境基準を超えています。市街地内では概ね静かな環境が確保されています。また、住宅が密集し、事業所が混在、隣接していることから、近隣騒音に対する苦情が発生している状況です。

表 市内の古墳位置図

項目・ 年度 測定地点	環境基準 (dB)	基準達成状況					
		2014 (H26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (令和元)
①上植野公民館	昼間	○	○	○	○	○	○
	夜間	×	×	○	○	○	○
②物集女公民館	昼間	○	×	○	○	○	○
	夜間	○	×	×	×	×	○
③鶏冠井公民館	昼間	×	○	○	○	○	○
	夜間	○	○	○	○	○	○
④寺戸コミュニティセンター	昼間	○	○	○	○	○	○
	夜間	○	○	○	○	○	○
⑤上植野落堀集会所	昼間	○	○	○	○	○	○
	夜間	○	○	○	○	○	×
⑥市役所本館	昼間	○	×	○	○	×	○
	夜間	○	×	○	○	×	×

1.3.5. 有害化学物質

ダイオキシン類に係る調査は、京都府が実施しており、近年における市内での調査では2012・2018(平成24・30)年度に地下水について各1か所、2016(平成28)年度に土壌について1か所で調査し、いずれも環境基準を達成していました。

なお、本市の一般廃棄物の処理を行っている乙訓環境衛生組合クリーンプラザおとくに（大山崎町）では、90℃以上の高温で焼却することで、廃棄物の焼却を行った際にダイオキシン類が発生しないように対策がとられています。



1.4. 都市環境

1.4.1. 土地利用

市の西部一帯は標高 35 メートルから 80 メートルの丘陵であり竹林が多くを占め、中部は住宅街を形成し、東部は耕地が多くなっています。

2020（令和 2）年における市域の土地利用状況では、宅地が市域全体の 55.2%と過半数を占めており、次いで田が 17.0%となっています。また、土地利用の推移をみると、田・山林の割合が減少し、宅地の割合が増えています。

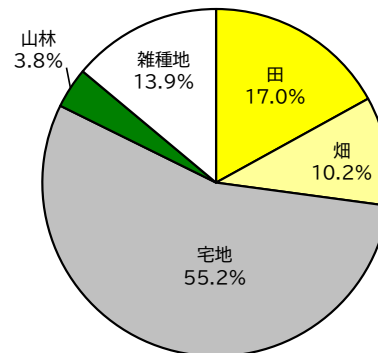


図 土地利用状況（令和 2 年）

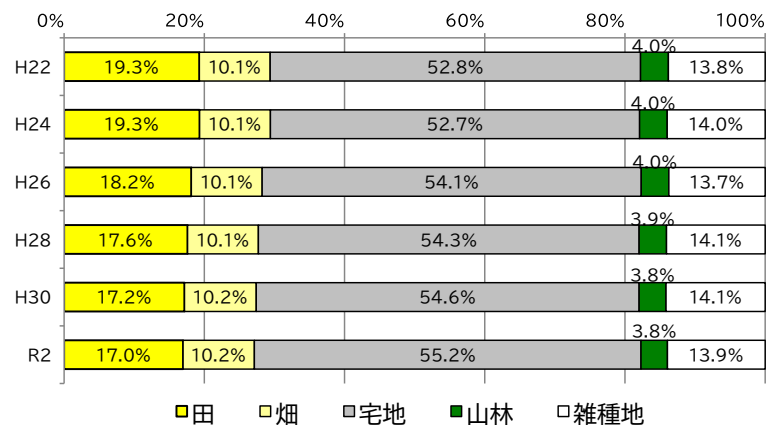


図 土地利用状況の推移（令和 2 年）

1.4.2. まちづくり

近年、新市街地整備が積極的に進められています。市北部周辺では、都市計画道路久世北茶屋線の整備や阪急洛西口駅、JR 桂川駅などの新駅が開業するとともに、これらの都市基盤整備と合わせて新たなまちづくりが土地区画整理事業により行われ、桂川・洛西口新市街地が誕生しました。また、JR 向日町駅東側に位置する森本東部地区でも土地区画整理事業により、営農環境の保全と研究開発・業務・製造施設等の立地誘導など、新たな産業拠点の形成が図られています。さらに、JR 向日町駅周辺における市街地再開発事業等も検討されています。



1.4.3. 緑地・公園

市内の緑地は、西ノ岡丘陵に代表される竹林が多くを占めており、特産品のタケノコを算出するとともに、美しい竹林景観を楽しむことができる散策路として、市内外から多くの方々が訪れています。

公園は、2020(令和2)年の時点で716千㎡が整備されており、人口1人当たりの公園面積は1.27㎡となっています。

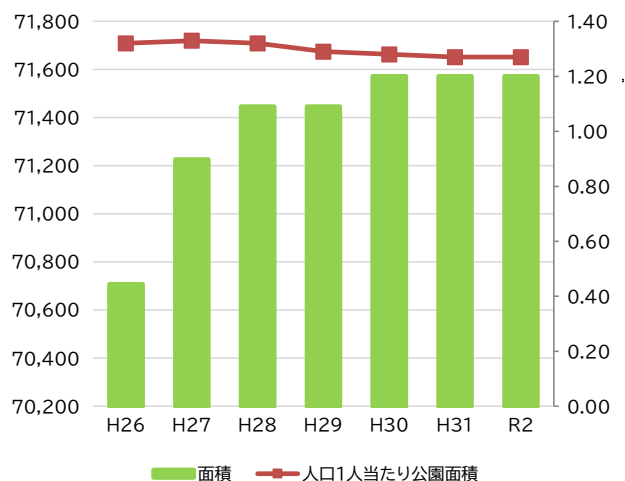


図 公園面積の推移

1.4.4. 水辺

本市には大河川はありませんが、寺戸川や石田川といった中小河川、はりこ池や弁天池といったため池があり、身近な水辺として市民に親しまれています。

水辺の写真

1.4.5. 歴史資源

本市には古くは長岡京がおかれ、早くから開けた地域として歴史的遺産が多数存在しています。本市の文化財には、向日神社本殿をはじめとする国指定が6件、須田家住宅をはじめとする府指定のものが4件、市指定のものが27件あります。また、物集女車塚古墳をはじめとする遺跡などの埋蔵文化財も市域に広く分布しています。

また、本市の発展の礎となった西国街道や向日神社を中心に、文化価値を有する街並みが残されており、都市景観を形成する上で大切な要素となっています。

市では、これらの適切な保存活用を進めるため、五塚原古墳等の公有化や、市内史跡の適切な保存と活用の促進のための史跡長岡宮保存活用計画の策定、また、観光への活用を目的とした復元体感アプリの配信等を行っています。



図 市内の古墳位置図

出典：向日市ホームページ

1.4.6. 交通

市内の幹線交通軸は、東海道新幹線や名神高速自動車道といった高速交通のほか、JR、阪急電鉄、国道171号などが中部から東部にかけて集中し、南北を縦断しています。

鉄道駅については、JR駅が1か所（向日町）、阪急電鉄駅が2か所（東向日、西向日）が存在しており、また市の北部周辺では、2003（平成15）年に阪急電鉄洛西口駅が開業したのに続き、2008年（平成20）年にJR京都線に桂川駅が開業しました。

都市計画道路の整備率は約33%と、京都府全体の約73%を大きく下回っている状況です※。このため、市内道路において、両側に歩道が確保できる幅員12m以上の道路は国道171号や一部の府道、幹線市道に限られています。

※向日市は2020（令和元）年8月時点（第3次向日市都市計画マスタープラン）、京都府は2017（平成29）年3月時点（京都府HP）

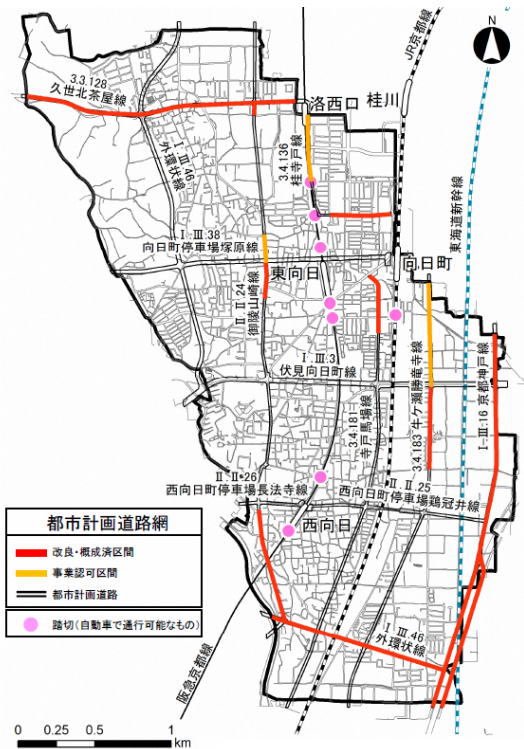


図 都市計画道路の整備状況

出典：第3次向日市都市計画マスタープラン

1.5. 自然環境

1.5.1. 地形

本市の地形は次にあげる 3 つのタイプに類型されています。

丘陵地 市域北西部にみられ、京都市との境をなしている。

段丘 丘陵地東側を縁どるように市街地に向け緩やかな斜面が広がっている。

沖積平野 桂川・小畑川によって形成された低地で市域東部～南部に広がっている。

1.5.2. 貴重な自然

西ノ岡丘陵には広範囲にわたって竹林が広がっており、本市ならではの独特の自然景観を形成している。市は「歴史と緑の散策の径ネットワーク」づくりに取り組んでおり、その一環として、「竹の径」やトリムコース等の竹林道が整備されています。

鳥類や昆虫類が比較的多く確認されている西ノ岡丘陵や行者池、新池、はり湖池などのため池は、本市の自然生態系を構成する重要な要素となっています。

年々宅地化が進んでいる中で、向日神社周辺やはり湖池周辺には都市の中の貴重な自然として多様な植生が残されています。

1.5.3. 身近な自然

市民が自然と親しむことができる身近な自然として、市内の 3 つの小学校においてビオトープが整備されており、児童が自然とのふれあいや環境学習の場として活用しています。また、市内では市民農園が実施されており、農業を通じて自然と親しむ機会を提供しています。

1.6. 資源の循環

1.6.1. ごみ分別区分

本市では家庭から排出されるごみの収集（収集ごみ）を行っています。また、乙訓環境衛生組合クリーンプラザおとくに直接搬入されるごみ（直接搬入ごみ）については、ほとんどが事業活動に伴い排出されるごみとなっています。

市では、ごみ分別区分を右表に示す8区分で分類し、収集を行っています。

また近年では、資源物の回収をさらに推進するため、2016(平成28)年度に小型家電（パソコン等）回収や廃食油の24時間回収などに取り組みました。

表 分別区分

燃えるごみ	
資源物	空缶、空ビン、ペットボトル、
	其他不燃物、其他プラスチック
	有害ごみ（蛍光灯、筒形乾電池）
粗大ごみ	

表 平成28年度から開始した資源物回収の取組

- 平成28年度
 - 4月 小型家電（パソコン等）回収開始
 - 6月 市役所にて廃食油24時間回収開始
市役所にて資源物（空缶・空ビン・ペットボトル）の24時間回収開始
 - 10月 市役所にて水銀含有廃棄物回収開始
 - 11月 鶏冠井コミュニティセンター等にて資源物（空缶・空ビン・ペットボトル）の24時間回収開始
- 平成29年度
 - 11月 北部防災拠、上植野コミュニティセンター（空缶・空瓶・ペットボトル）の24時間回収開始
- 令和2年度
 - 6月 市役所にて資源物回収ステーション（空缶・空瓶・ペットボトル・廃食油・紙パックに加え、古紙回収）を開設

1.6.2. 収集ごみ量

収集ごみ量の総量についてみると、年間13,500トン前後で推移しており、2016(平成28)年度まで減少傾向でしたが、2017(平成29)年度から平成30年度にかけて増加しています。

全体に占める割合についてみると、収集ごみ量のうち約67%を家庭系ごみが占めており、経年の推移は家庭系ごみが減少傾向、事業系ごみが増加傾向となっています。

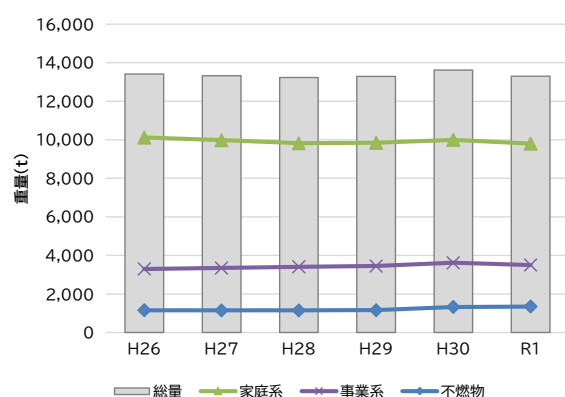


図 収集ごみ量の推移

1.6.3. 不法投棄

市内での不法投棄家電件数をみると、2017(平成 29)年度にかけて減少しており、近年は 25 件前後で推移しています。

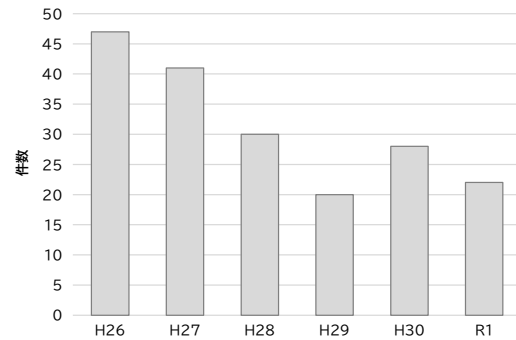


図 不法投棄家電件数の推移

1.6.4. 地下水

農地の減少、市街化が進行したことで、雨水の地下浸透が少なくなってきました。本市の水道水源は地下水と京都府営水道があり、地下水について、経年的に井戸の水質や水位を調査し、必要に応じて、京都府営水道からの受水を増量することで地下水の保全を図っています。

また、本市では地下水涵養のため、公共施設整備等への雨水浸透施設の設置や透水性舗装等の採用、雨水利用施設の普及に取り組んでいます。



図 物集女西浄水場

1.7. 地球環境

1.7.1. 気候変動対策

本市では、温室効果ガスの排出削減に向けて、地球温暖化対策実行計画（区域施策編、事務事業編）を策定しており、「区域施策編」では市民や事業者によって市域から排出された温室効果ガス、「事務事業編」では公共施設や市の事業から排出された温室効果ガスの削減に計画的に取り組んでいます。

公共施設や市の事業における取組としては、街路灯や公共施設照明のLED化などに取り組むとともに、2021(令和3)年に竣工した向日市新庁舎ではZEB Ready※としました。

また、市民や事業者からの排出削減に向けた取組としては、太陽光発電設備の導入補助やグリーンカーテン講習会、広報などを通じた温暖化対策についてのPR活動等を通じて温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

市域から排出される温室効果ガスの排出削減を目的とした計画である向日市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）では、温室効果ガスの排出削減目標として、2021年度の排出量を1990年度比-25%（124.4千t-CO2）とすることを目標として掲げています。直近年度である2018年度における排出量は、基準年度比-3%（161.3千t-CO2）でした。



向日市新庁舎

※ZEB Ready

ZEBとは、消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことであり、その段階によって、次の3つに定義されている。

・ZEB:

年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物

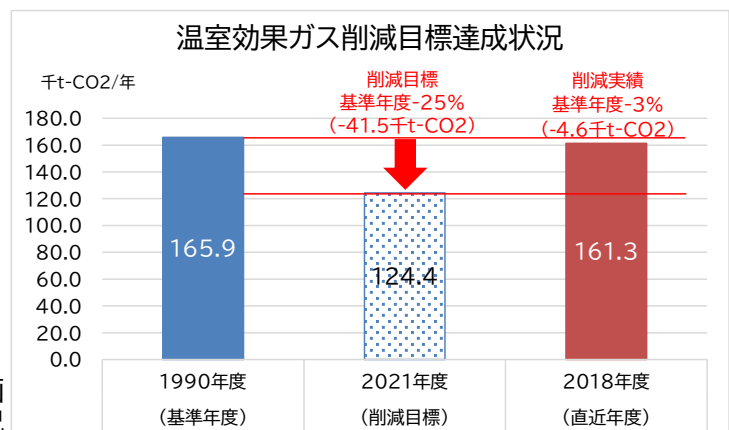
・Near ZEB:

ZEBに限りなく近い建築物として、ZEB Readyの要件を満たしつつ、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近付けた建築物

・ZEB Ready:

ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物

図 向日市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）目標達成状況



1.7.2. 本市の温室効果ガス排出量

1) 総排出量の推移

本市の温室効果ガスの総排出量は、2018年度において161.3千トン-CO₂となっており、基準年度である1990年度から2.8%減少しています。過去10年における総排出量の推移をみると、2012年度に総排出量が217.4千トン-CO₂となり、最も排出量が多く、その後減少が続いています。総排出量と関西電力株式会社の電力のCO₂排出係数を比較すると、2005年頃までは推移の傾向が異なっていますが、2011年頃から両者が似た推移をしており、近年の本市の温室効果ガス排出量に電力CO₂排出係数が大きく影響していると考えられます。

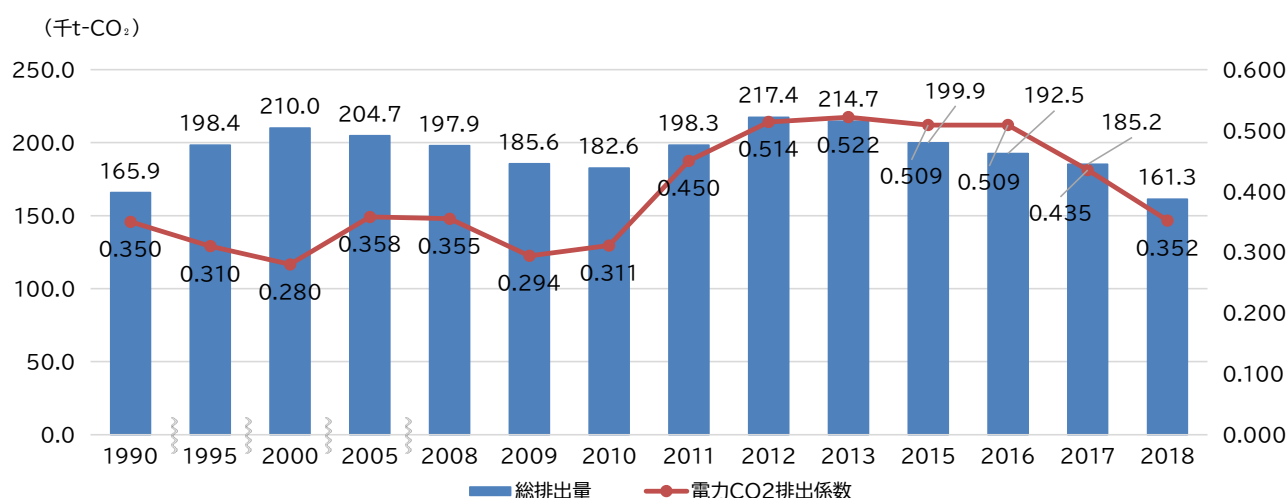


図 温室効果ガス総排出量と電力のCO₂排出係数の推移

図 温室効果ガス総排出量の内訳

単位: 千t-CO₂換算値

年度	1990	1995	2000	2005	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
【産業部門】	30.3	37.3	42.1	33.2	29.4	28.5	25.9	22.7	23.3	26.8	22.7	22.4	16.8	20.2	14.2
農林漁業	0.6	0.4	0.6	1.4	1.0	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	1.1	1.3	1.1	1.1
鉱業・建設業	6.8	5.1	4.5	3.7	2.7	2.9	2.8	3.4	3.3	3.2	2.7	2.6	2.1	2.1	1.8
製造業	22.9	31.7	37.1	28.1	25.7	24.4	22.1	18.3	19.0	22.6	19.1	18.7	13.5	17.0	11.3
【民生業務部門】	16.2	25.2	27.8	27.6	28.8	24.9	26.8	36.0	44.6	40.6	40.4	41.8	37.0	32.1	26.5
【民生家庭部門】	49.1	53.9	52.2	64.3	61.7	53.7	60.3	72.1	76.9	76.9	74.5	67.7	72.6	66.7	53.5
【運輸部門】	64.9	76.7	81.7	73.2	73.6	72.6	63.8	61.5	65.8	64.7	61.1	60.5	59.6	58.9	56.6
【廃棄物部門】	5.4	5.4	6.2	6.4	4.4	5.9	5.8	5.9	6.8	5.7	6.9	7.6	6.5	7.3	10.6
CO ₂	4.6	4.6	5.3	5.6	3.5	5.0	5.0	5.1	5.9	4.9	6.1	6.7	5.7	6.5	9.7
CH ₄	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
N ₂ O	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
総排出量	165.9	198.4	210.0	204.7	197.9	185.6	182.6	198.3	217.4	214.7	205.5	199.9	192.5	185.2	161.3

2) 部門別排出量、排出割合の推移

総排出量におけるそれぞれの部門別割合をみると、1990 年では運輸部門の割合が最も高く（約 39%）、次いで民生家庭（約 30%）、産業部門（約 18%）だったのに対し、2018 年度では運輸部門（約 35%）、民生家庭部門（約 33%）、民生業務部門（約 16%）となっており、運輸部門及び産業部門の割合が低下し、家庭部門及び民生業務の割合が増加しているとわかります。また、廃棄物部門についてみると、全体に占める割合は少ないですが 1990 年度から 2018 年度までで約 3 倍に増加しており、これはごみに含まれるプラスチック類の割合が増加していることが原因のひとつとして挙げられます。

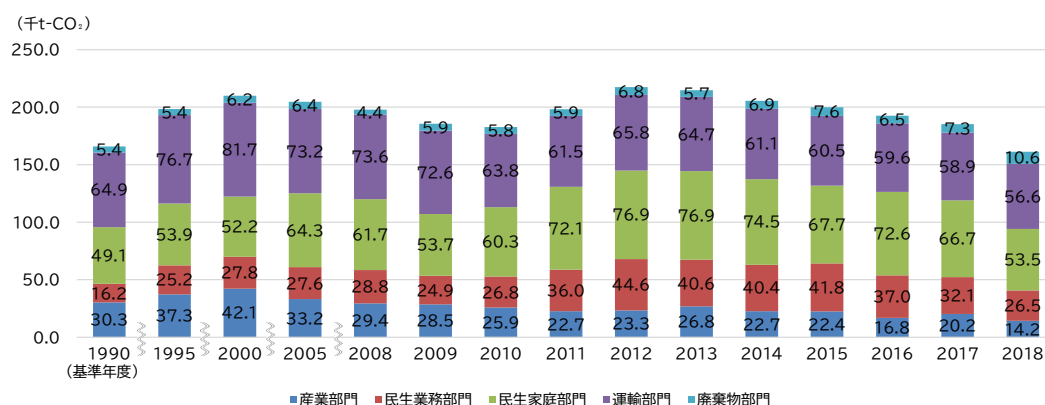


図 温室効果ガス総排出量の部門別内訳の推移

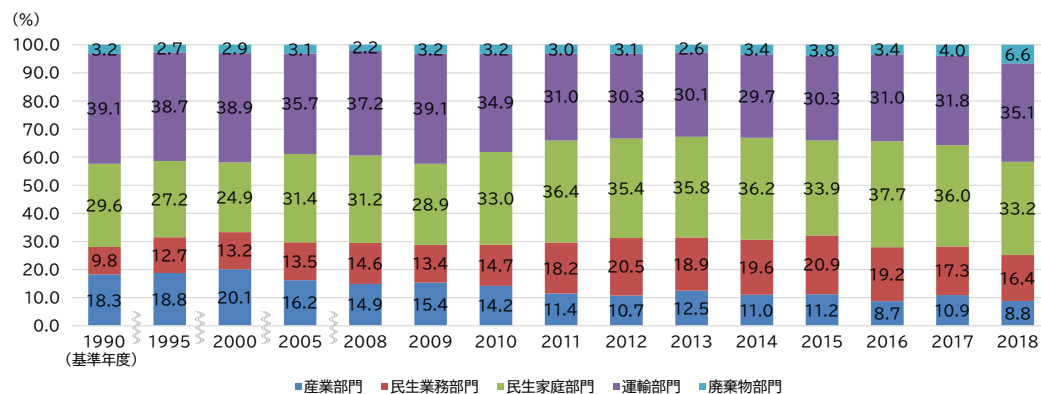


図 部門別割合の推移

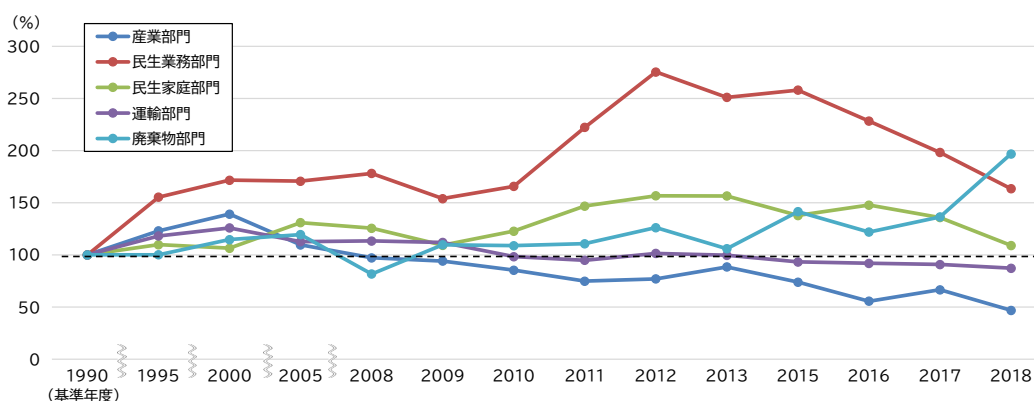
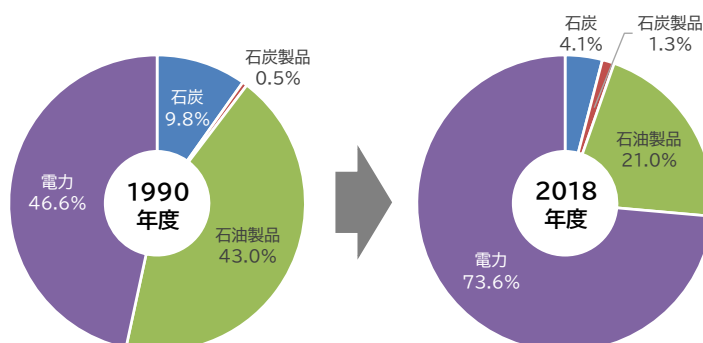


図 部門別排出量の推移 (1990 年度を 100 とする)

3) 各部門における排出状況の比較（1990 年度、2018 年度）

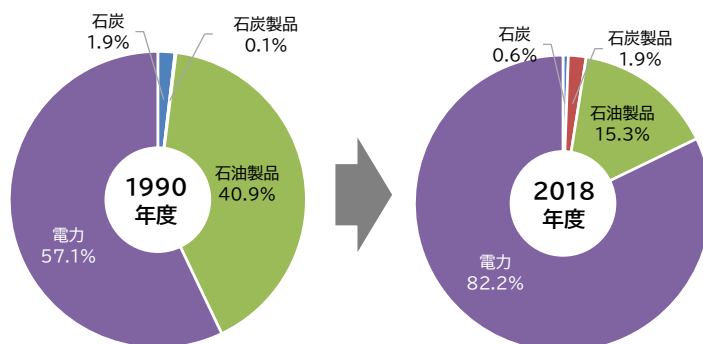
① 産業部門

2018 年度において、最も排出割合の高いのは電力（約 74%）であり、次いで石油製品（約 21%）となっています。1990 年度と比較すると、最も排出割合の高い電力は約 27pt 増加しており、次いで多い石油製品は約 22pt 減少しています。



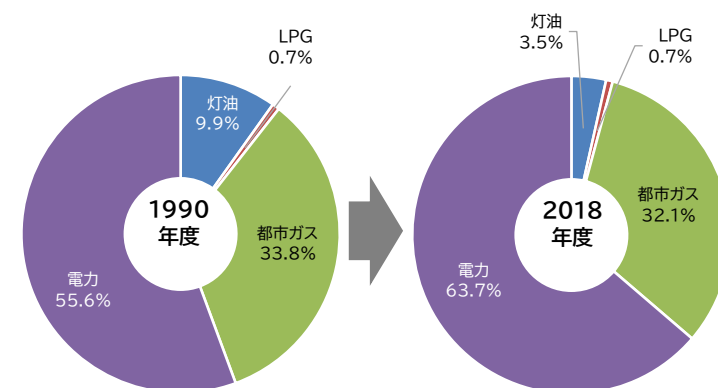
② 民生業務部門

2018 年度において、最も排出割合の高いのは電力（約 82%）であり、次いで石油製品（約 15%）となっています。1990 年度と比較すると、最も排出割合の高い電力は約 25pt 増加しており、次いで多い石油製品は約 26pt 減少しています。



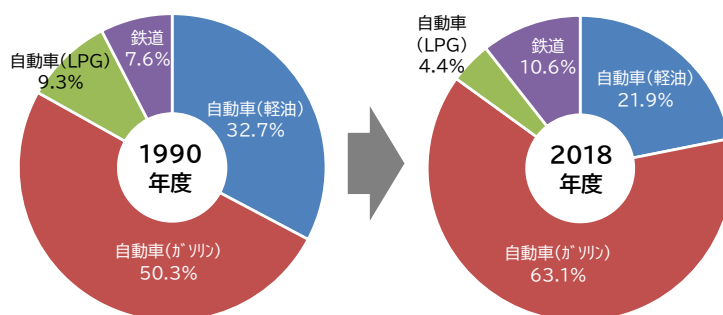
③ 民生家庭部門

2018 年度において、最も排出割合の高いのは電力（約 64%）であり、次いで都市ガス（約 32%）となっています。1990 年度と比較すると、最も排出割合の高い電力は約 8pt 増加しており、次いで多い石油製品は約 2pt 減少しています。



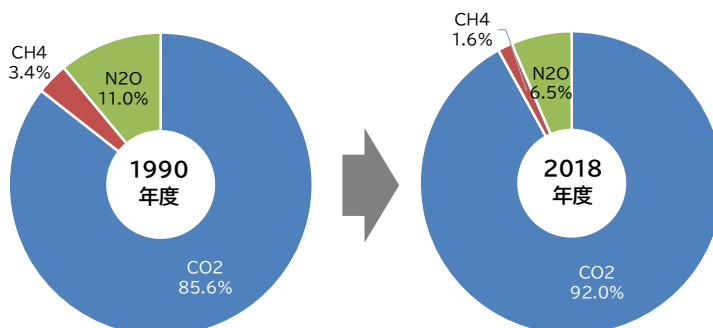
④ 運輸部門

2018 年度において、最も排出割合の高いのは自動車(ガソリン) (約 63%) であり、次いで自動車(軽油) (約 22%) となっています。1990 年度と比較すると、最も排出割合の高い自動車(ガソリン)は約 13pt 増加しており、次いで多い自動車(軽油)は約 11pt 減少しています。



⑤ 廃棄物部門

2018 年度において、最も排出割合の高いのは CO2 (約 92%) であり、次いで N2O (約 6.5%) となっています。1990 年度と比較すると、最も排出割合の高い CO2 は約 6pt 増加しており、次いで多い N2O は約 5pt 減少しています。



1.8. 環境保全への参加

1.8.1. 情報の収集・提供

ごみの分別収集・減量化に向けて、ごみ出しルールブック「ごみ減量のしおり」の配布や、生ごみ堆肥化容器の普及（補助金交付）に取り組んでいます。

環境にやさしい店づくりのより一層の推進を図るため、簡易包装やエコマーク商品の販売などに積極的に取り組む小売店等を「ごみ減量推進協力店」として認定しています。

「広報むこう」では毎月環境関連情報を掲載し、市民に環境情報を発信しています。

「向日市民平和と人権のつどい」

令和4年度の向日市まつりを
一緒に企画・運営してみませんか

ごみの分別収集・減量化に向けて、ごみ出しルールブック「ごみ減量のしおり」の配布や、生ごみ堆肥化容器の普及（補助金交付）に取り組んでいます。

環境にやさしい店づくりのより一層の推進を図るため、簡易包装やエコマーク商品の販売などに積極的に取り組む小売店等を「ごみ減量推進協力店」として認定しています。

「広報むこう」では毎月環境関連情報を掲載し、市民に環境情報を発信しています。

ごみのおはなし 空き瓶のゆくえ

市では、昭和53年12月から空き瓶の分別収集が始まりました。
「クリーンプラザおくとく」では、空き瓶を選別し、再生工場に運ぶまでの中間処理をリサイクルプラザで行っています。

リサイクルプラザに運ばれてきた空き瓶類は、
①計量器で搬入量の重量をはかった後、プラットフォームから受入ホッパーへ投入されます。
②瓶選別コンベアに運ばれ、透明・茶・緑・その他の色など、色ごとに手選別され再生工場へ運びます。
③再生工場に運ばれたガラス瓶は細かく砕かれ（カレット）、異物を取りのぞいた後高温で溶かされ、新しい瓶などにリサイクルされます。カレットを使用することで、減量や燃料エネルギーを節約できます。

収集

選別

カレット

再生工場へ

リサイクルの例
瓶、住宅用断熱材、道路舗装材など

空き瓶は細かく砕かれて再び瓶に生まれ変わります。ところが、そのときに金属・プラスチック・陶磁器などが混ざっていると、再生ガラスの強度に大きく影響します。また、同じガラス製品でも、銅や皿などの耐熱ガラスが混ざると欠陥品の原因になります。資源ごみの分別にご協力をお願いします。

「広報むこう」による情報発信

1.8.2. 環境教育・学習

児童を対象とした取組としては、全小中学校で環境教育を教育課程に位置づけ、計画的に環境学習について取り組んでいます。また、京都技術士会の協力により、小学生を対象とした環境教育を継続的に実施しています。

一般の方を対象とした取組としては、毎年度「環境市民講座」を数回実施しており、多数の方に参加いただき、環境意識の啓発を行っています。

1.8.3. 環境保全活動

市役所、公民館、コミュニティセンター、市内すべての保育所などで牛乳パックの回収箱を設置しています。

市内では、民間団体の協力のもと、道路の清掃活動が行われています。

1.8.4. 市民団体による取組

(現在調査中)

2. 現行計画の進捗状況について

2.1. 現行計画の進捗状況評価の考え方

現行計画では、各施策の進捗状況管理とともに、基本目標の達成度評価のため、環境指標（目標項目、管理項目）を定めており、それぞれ以下のような性格を持っています。

【目標項目】

●概要

- ・2021年度における具体的な数値目標を設定し、環境保全施策の推進により達成を目指す項目

●評価の考え方

- ・目標値に対する取組実績値の割合（達成率（%））で進捗状況进行评估

【管理項目】

●概要

- ・数値だけで一概に評価できないもの、他の条件との兼ね合いから目標値設定が明確でないものなどであり、具体的な目標値は設定しておらず、その動向について把握する項目

●評価の考え方

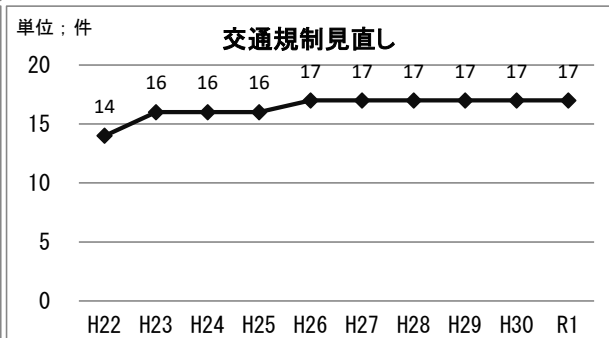
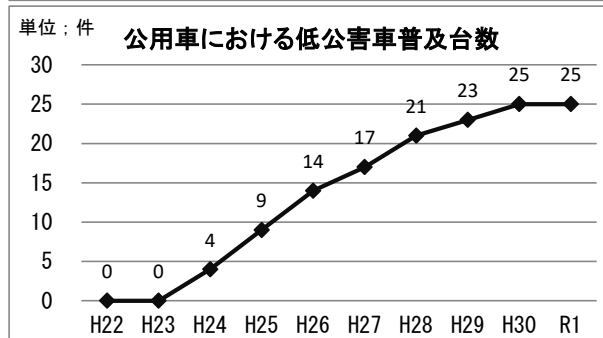
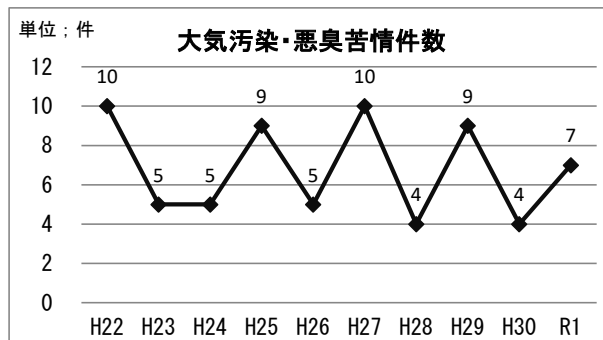
- ・実績の数値化が可能なものについては、実績値の推移を踏まえて定性的に評価
- ・実績の数値化が困難なものについては、取組内容について定性的に評価

2.2. 環境指標の評価結果

2.2.1. 生活環境の保全

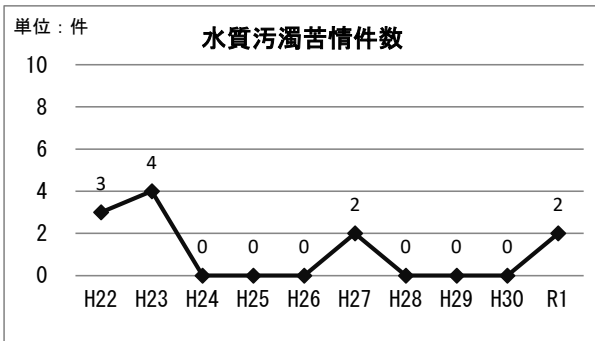
① 空気のすがすがしさを確保する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
大気環境基準 達成状況	観測地点で環境基準 を達成します	6 か所	6 か所 (R1 年度実績値)	100%
大気汚染・悪臭 苦情件数	苦情に迅速に対応 し、解決に努めます	—	7 件 (R1 年度実績値)	↘
低公害車 普及台数	500 台の普及を目指 します	500 台	2,671 台 (R1 年度実績値)	100%以上
公用车における 低公害車普及台数	低公害車の導入を進 めます	—	25 台 (R1 年度実績値)	↗
交通規制の 見直し件数	自動車利用の抑制、 交通渋滞の緩和に向 けた規制見直し(一 方通行など)に努め ます	—	17 件 (R1 年度までの累積値)	→
野焼きに関する 啓発指導	広報、HP などを通 じて野焼き禁止の啓 発を進めます	—	実施なし	—



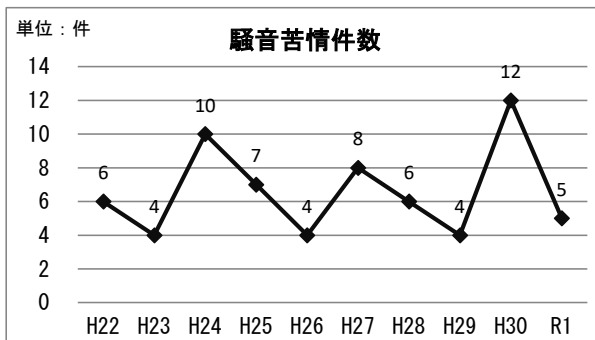
② きれいな水環境を確保する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
河川水質 (BOD・SS)	観測地点で BOD が 2mg/ℓ 以下(A類型 相当)の水質を確保 します	20 回達成/年	18 回達成/年 (R1 年度実績値)	90%
	観測地点で SS が 25mg/ℓ 以下(A類型 相当)の水質を確保 します	20 回達成/年	20 回達成/年 (R1 年度実績値)	100%
水質汚濁苦情 件数	苦情の内容により、 法規制と照合し指導 します	—	2 件 (R1 年度実績値)	↘



③ 快適な静けさを確保する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
騒音環境基準達 成状況	観測地点で環境基準 を達成します	6 地点達成	4 地点達成 (R1 年度実績値)	67%
騒音苦情件数	苦情に迅速に対応 し、解決に努めます	—	5 件 (R1 年度実績値)	↗
工事における低 騒音機械の使用 件数	市が行う工事におい て、低騒音型機械の 使用を義務付けると ともに、民間が行う 工事においても可能 な限り指導、推奨し ます	—	市が行う工事につ いて、低騒音型機 械の使用を義務付 け実施	—



④ 有害化学物質による環境汚染を防止する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
地下水質環境基準達成状況	観測地点で環境基準を達成します	—	府が H24,30 年度に実施した調査では環境基準を達成	—
ダイオキシン類に係る環境基準達成状況	大気・水・土壌中の濃度について環境基準を達成できるよう努めます	—	府が H28 年度に実施した調査では環境基準を達成	—
アスベストに関する基準達成状況	環境基準を達成できるよう努めます	—	実施なし	—
有害化学物質についての情報提供件数	P R T R 制度の対象物について情報を提供します	—	実施なし	—

2.2.2. 都市環境の創造

⑤ 緑を楽しめるまちづくりを進める

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成状況 (%)もしくは 取組状況
公園緑地面積	市民 1 人当たり 4.5 m ² を目指します	4.5 m ²	1.27 m ² (R1 年度実績値)	28%
市域面積に対する緑地割合	緑地割合 34% を目指します	31%	34% (H19 年度 3 月時点)	91%
公共公益施設 (1,000 m ² 以上) の緑化面積	敷地面積の 15% を確保するよう目指します	15%	6% (H19 年度 3 月時点)	40%

⑥ 安心して親しめる水辺をつくる

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
親水護岸などの水辺環境の保全	ため池などにおいて水辺の保全に努めます	—	実施なし	—

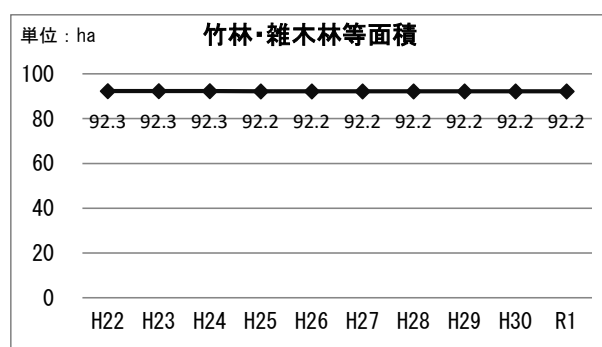
⑦ 歴史的資源をまちなみづくりに生かす

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
中心市街地重点整備エリア整備計画の策定	策定に向けて取り組みます	—	社会資本総合整備計画に基づいて、JR 向日町駅周辺地区の整備を実施	—
竹の径の整備	竹垣の計画的な修景に努めます	—	「竹の径」における竹垣の保全・整備を継続的に実施	—
向日市景観計画の策定	策定に向けて取り組みます	—	実施なし	—

2.2.3. 人と自然との共生

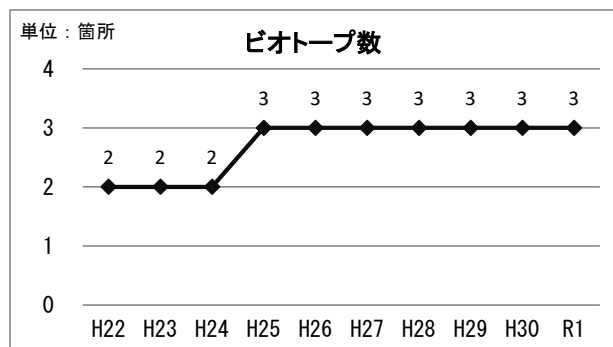
⑧ 地域が保有する自然環境を維持する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
竹林・雑木林・農地など面積	現状を維持するとともに、京都の自然 200 選にふさわしい景観の保全に努めます	—	92.2ha (R1 年度実績値)	→
身近な動植物の生息状況	身近な動植物について情報を収集します	—	実施なし	—
市民農園実施件数	2 か所約 100 区画の継続に努めます	100 区画	72 区画 (R1 年度実績値)	72%



⑨ 自然と親しみ、学ぶ機会を増やす

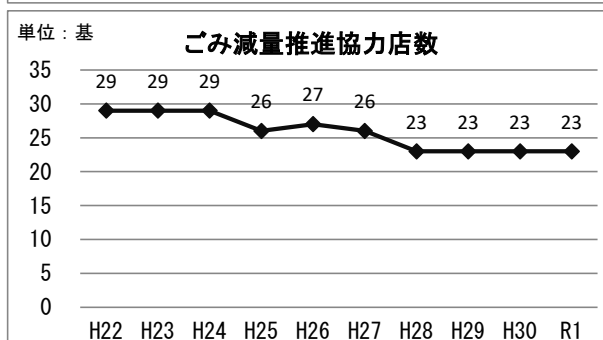
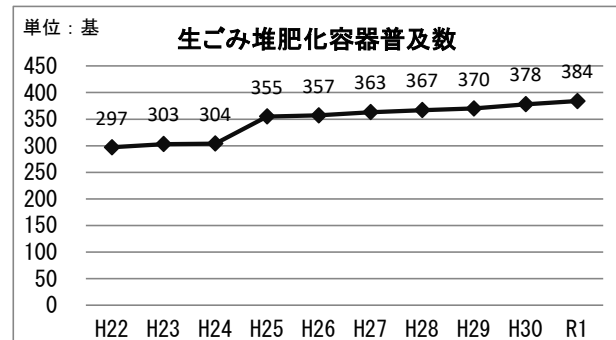
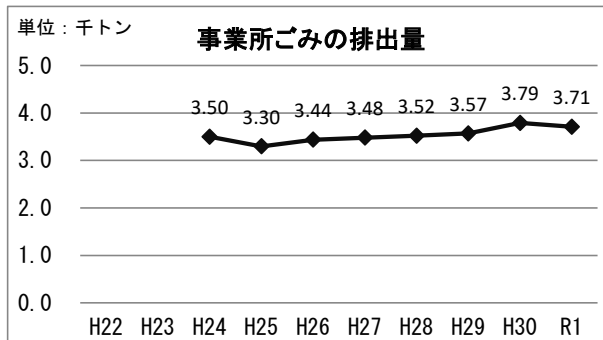
目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
ビオトープ数	学校と地域で連携した 取組みを目指します	—	3 か所 (R1 年度実績値)	→
ひまわり畑数	1 か所以上の継続実施 に努めます	1 か所以上	1 か所 (R1 年度実績値)	100%



2.2.4. 資源の循環的利用

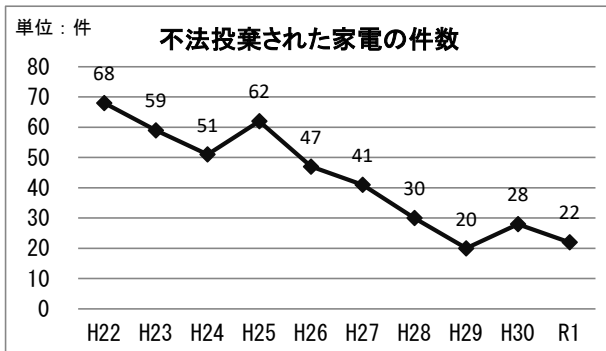
⑩ 4R型の資源循環利用を促進する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
1人当たりのごみ排出量	1日あたりの排出量を544gに削減します	524g/日・人	519g/日・人 (R1 年度実績値)	100%以上
事業所ごみの排出量	事業所から排出されるごみの削減を目指します	—	3,710t (R1 年度実績値)	↗
生ごみ堆肥化の推進	啓発や講座の開催を通じて生ごみの堆肥化を推進します	—	堆肥化容器の購入補助制度の周知を実施	—
生ごみ堆肥化容器普及数	普及啓発に努めます	—	384件 (R1 年度までの累積値)	↗
ごみ減量推進協力店数	ごみ減量推進に対する協力店の増加を目指します	—	23店 (R1 年度実績値)	↘
レジ袋の削減	事業所におけるレジ袋削減の取組を推進します	—	レジ袋有料義務化に伴い全ての店舗で実施	—
買物袋（マイバッグ）利用者割合	レジ袋の受け取り拒否を推奨するとともに、買物袋の持参率 75%を目指します	75%	63% (R1 年度実績値)	84%
ごみ資源化率	容器包装類の分別収集を徹底し、収集ごみの10%を資源化します	10%	4.4% (R1 年度実績値)	44%
リサイクルイベントの開催数	毎年2回実施します	2回	2回 (R1 年度実績値)	100%
廃食油回収量	年間 3,000 リットルの回収を目指します	3,000 リットル	3,344 リットル (R1 年度実績値)	100%以上
紙パック回収量	年間 2 トンの回収を目指します	2.0 トン	2.0 トン (R1 年度実績値)	100%



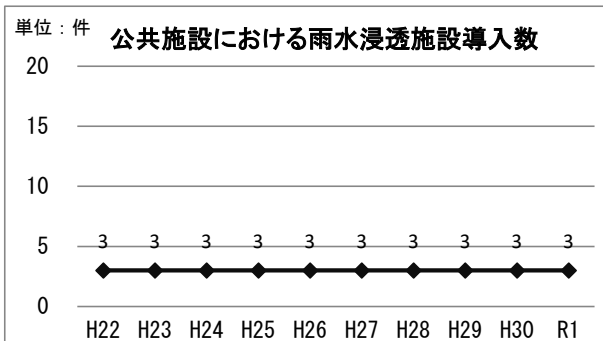
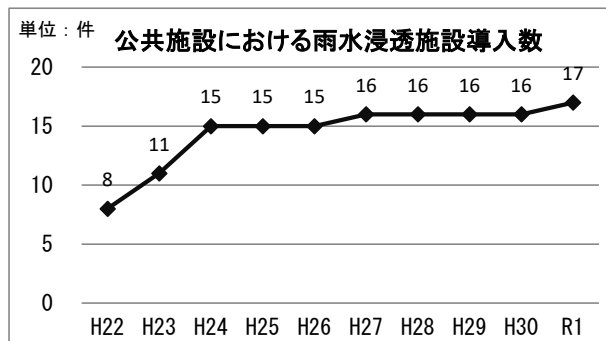
⑪ ごみの適正処理を推進する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
ごみの出し方・ 分け方カレンダー などの配付	カレンダーなどを配付し、 ごみの分別方法の啓発をすすめます	—	毎年度カレンダーの配布を実施	—
クリーン作戦などの清掃活動参加団体数	年 2 回以上実施し、延べ 200 団体以上の参加を目指します	200 団体	172 団体 (R1 年度実績値)	86%
不法投棄された家電の件数	不法投棄ゼロを目指します	—	22 件 (R1 年度実績値)	↘



⑫ 地下水を保全し、水環境を守る

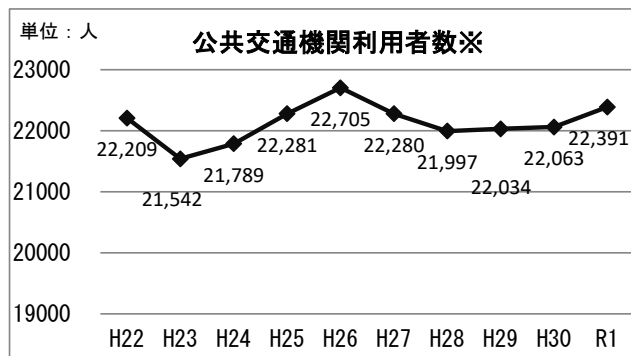
目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
公共施設における雨水浸透施設導入	公共施設の整備において、雨水浸透施設や透水性舗装を実施し、雨水の地下浸透を促進します	—	17 件 (R1 年度までの累積値)	↗
公共施設における雨水利用施設導入	公共施設の整備の際、導入を検討します	—	3 件 (R1 年度までの累積値)	→



2.2.5. 地球環境の保全

⑬ 地球温暖化防止に向けた行動を促す

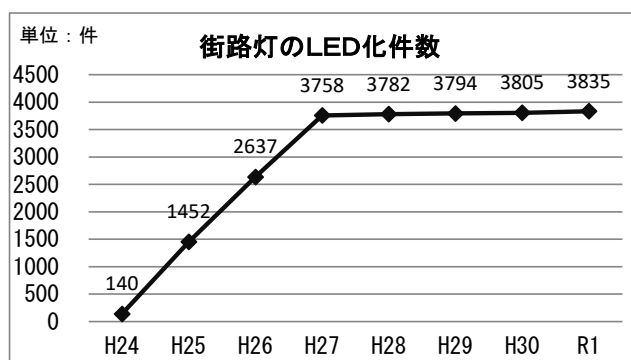
目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
地球温暖化対策に関する情報提供件数	HP、広報などで年 4 回以上の提供を目指します	4 回	12 回	100%以上
公共交通機関利用者数	通勤・通学者における公共交通機関利用率の増加を目指します	—	22,391 人 (R1 年度実績値)	↗
通勤手段をマイカーから公共交通へ転換する	通勤手段をマイカーから公共交通へ転換することを目指します	—	実施なし	—



※鉄道の乗降客数（1日あたり平均）

⑭ エネルギーを効率的に利用する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
太陽光発電設置世帯数	全世帯の 2 %以上の導入を目指して普及啓発に努めます	428 件	900 件 (R1 年度推計値)	100%以上
公共施設の太陽光発電設置件数	新設工事、改修工事の際に設置を検討します	—	新庁舎への太陽光発電設備を設置 (14kW)	—
公共施設への省エネ設備導入	公共施設整備などにおいて導入を検討します	—	公共施設の改修時における LED 化を随時実施	—
街路灯の LED 化件数	街路灯の LED 化を推進します	—	3,835 灯 (R1 年度実績値)	↗



2.2.6. 環境保全への市民参画

⑮ 環境に関する情報を収集し、提供する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
環境情報の提供 件数	HP、広報などで年 4 回以上の提供を目指し ます	4 回	12 回 (R1 年度実績値)	100%以上
大気中の放射性 物質にかかる情 報提供件数	HP、広報などで大気中 の放射性物質に関する 情報を提供します	—	実施なし	—

⑯ 環境教育・環境学習を推進する

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
市民講座開催 数、受講者数	年 4 回以上市民講座を 開催し、延べ 200 人上 の受講を目指します	4 回以上	3 回 (R1 年度実績値)	75%

⑰ 環境保全活動の仕組みをつくる

目標・管理項目	目標値・管理方針	目標値 (R3 年度)	実績	達成率(%) もしくは 取組推移
環境教育の充実	環境教育について各教 科、総合的な学習の時 間などの中で、その充 実に努めます	—	全中学校で環境 教育を教育課程 に位置付け、計画 的に実施	—
環境ボランティ アの育成講座の 開催回数	環境保全活動の主体と なる人材を育成するた めの講座を開催します	—	実施なし	—

3. 現状における課題

●生活環境について

本市の生活環境については、大気、水質、有害物質について概ね良好な環境が維持できている一方、騒音・振動については調査結果や苦情件数、アンケート結果からさらなる改善が必要と考えられます。今後も良好な生活環境を維持するとともに、改善が必要な面については対策を進め、良好な環境づくりに取り組む必要があります。

●都市環境について

市北部周辺の桂川・洛西口新市街地や JR 向日町駅東側に位置する森本東部地区、阪急向日駅周辺における市街地再開発事業等においては、良好な景観づくりや自然との共生に努めるなど、良好な都市環境づくりを進める必要があります。また、現在、本市の豊富な歴史資源の活用が進められていますが、今後もこれらをいかした向日市らしいまちづくりに取り組む必要があります。

●自然環境について

市内の自然環境としては、竹林をはじめとした山林、水田、畑やため池などがみられ、これらのうち特に水田は近年の開発に伴って減少傾向にあります。今後もこれらの自然環境を維持し、生きものの生育環境を維持することが必要です。

●資源循環について

循環型社会の形成に向けて様々な取組が進められており、市民から排出されるごみの削減が進んでいる一方で事業者ごみの増加がみられることから、さらなる対策が必要です。また、食品ロスやプラスチックごみ対策を通じて、さらなる削減を進める必要があります。

●地球環境について

市域から排出される温室効果ガスの総排出量は、2012 年度をピークに減少傾向にあり、部門別にみると、廃棄物部門を除いた各部門で減少していますが、目標の達成には至っておらず、さらなる大幅な削減が必要です。また、今後、気候変動の進行に伴って水害をはじめとして様々な影響が予測されることから、気候変動への適応を図る必要があります。